

ベルリン日独センターは2019年5月9日および10日の両日に、デュースブルク・エッセン大学の東アジアイノベーション先端科学研究所 (IN-EAST) の協力を得て、国際シンポジウム「エレクトロモビリティと都市システム——グローバルなコンテキストでみる東アジアのイノベーション」を開催します。本紙は同研究所のマルクス・タウベ所長 (Prof. Dr. Markus TAUBE) に本シンポジウムの背景についてお話をうかがいました。

**編集部:**本シンポジウムは、ドイツ連邦教育研究省から研究費を得て実施してこられた研究事業の最終イベントですが、その研究事業の内容と主な焦点を教えてください。

**タウベ教授:**この6年間、異なる文化圏や政治環境においてイノベーションが生まれ、社会に受け入れられるプロセスを調査してきました。その際、最初に意図的に目を向けたのが、ここ数年ないしは数十年間においてきわめて革新的な力を発揮してきた東アジアの社会です。そして、次のステップとして、東アジアとドイツないしはヨーロッパの違いを調査し、私たちが東アジア社会から何かを学ぶ可能性を検討しました。

私たちの研究では、イノベーションは単に「何か新しいものを発見・発明する」と理解されるものではなく、イノベーションの方向性、強度、ダイナミクスが政治的構造、社会的嗜好、文化的特徴・影響によって強く決定されるものであるとの仮定からスタートしました。それは、(国内の)イノベーション環境がどの程度創造性を促進するか、そして新しい技術的解決策がどの程度社会に受け入れられ実施されるのかを決定するのが政治的構造、社会的嗜好、文化的特徴・影響だからです。これを端的に示すのが、人工知能(AI)の分野におけるイノベーションに関してヨーロッパと東アジアできわめて異なる議論が展開されていることです。ヨーロッパではディストピア(反ユートピア)的なホラーシナリオを中心とする議論がみられるのに対し、東アジアではどちらかというとAIによって日常生活がより快適になり、人生そのものがよくなる可能性が強調されます。その結果、AIに関してヨーロッパと東アジアで全く異なるイノベーションダイナミクスがみられるのです。

**編集部:**イノベーションのなかでもエレクトロモビリティを取り上げた理由はなんですか。

**タウベ教授:**イノベーションは巨大な分野であり、生活のあらゆる分野で現れます。そこで、抜群のダイナミクスを持つと同時に、社会において特に重要な分野に集中しなければなりません。この前提を特に満たす分野として、エレクトロモビリティをはじめとする新しいパワートレイン技術の開発と、その結果必然的に生まれる都会生活圏におけるイノベーションが挙げられます。

現在、エレクトロモビリティも含めた新しいモビリティが出現しはじめていますが、これこそ今後数十年間の重要なイノベーションでしょう。新しいモビリティには既存の構造および依存関係や力関係を抜本的に覆す潜在能力があります。国や地域のシステムが新しいモビリティを制度化できるようにすることは、国や地域の相対的な競争力および「勝者」と「敗者」の形成に密接にかかわってきます。この文脈で、「政治的プロセス管理と分散型イノベーションパフォーマンスの生産的な組み合わせ」「社会および消費者のエレクトロモビリティの受容性(革新、普及)を決定するパラメータ」「強力になりつづけるアジアの自動車会社とドイツの自動車会社が競争するための戦略」といった研究課題が生じます。

**編集部:**では、都市システムを取り上げた理由はなんですか。

**タウベ教授:**私たちの研究の第2の分野が都市システムです。近年、都市システムは技術革新の中心的な担い手として、また社会の補完的な方向転換の中心的手段としての地位を確立しており、これらのプロセスの結果として都市システム自体が大きな変化に直面しています。したがって、イノベーションの応用研究では、都会の生活環境の発展に常に注目しなければなりません。都会でみられる変化が、私たちが最初に認識していたよりもはるかに過激なこともあり得るからです。

エレクトロモビリティと都市システム間の関連性が非常に際立っているため、エレクトロモビリティを都市システムと切り離して論じることは実際不可能です。マルチモーダルモビリティの要素としてのエレクトロモビリティの実現可能性は都市の生活環境に直接関連しており、(インフラおよび社会の)都市構造によって直接影響を受けます。同時に、エレクトロモビリティは都市空間におけるインフラ・環境・社会的課題等に対処するための新しい可能性を生み出します。

**編集部:**東アジア諸国とヨーロッパ諸国間にどのような共通点と相違点がありますか。

**タウベ教授:**ヨーロッパと東アジアの社会は多くの分野で同じ課題に直面しています



写真 © IN-EAST School of Advanced Studies

が、各々の規範・価値システムを背景に別の対処法を採っています。これには、個々のライフスタイルとして「正しい」とみなされるもの、社会における共生(社会的共同体)といった基本的な文化的アイデアが含まれます。特に、個人の自己実現の意義は大きく異なり、その結果、(技術的および社会的)問題の認識と解決に大きな違いがみられます。もちろん、人口構成の違いや政治システムが大幅に異なることも、それぞれの社会においてイノベーションが促進されないしは阻止される方法に大きく影響します。それにもかかわらず、ヨーロッパと東アジア間で相互に意見や経験を交わすことが可能な多くの分野があります。特に課題への対処における相違と特異性は刺激的な効果をもたらし、全く異なる社会的状況で新たな解決策を生み出す契機となり得ます。

**編集部:**アイデアは国境を超えます。国境を越える現象(制度移転)を説明することは可能でしょうか。

**タウベ教授:**私たちは孤立して暮らしている訳ではありません。現在保護主義的・国家主義的傾向が多く、多くの国々で新たに人気を博すようになってきたとしても、私たちが暮らすのはグローバル化した世界です。万人の富とイノベーションの大部分は、国境を越えた商品とアイデアの交流に基づいています。それでも、アイデア、知識、制度の社会間移転は決して瑣末事ではありません。アイデア、知識、制度は特定の社会環境で出現し、その環境に「最適化」されています。したがって、それらを外国の社会文化環境に移転する際には、調整と解釈が常に必要となります。さらに、一対一の移転はなく、パターンのみが移転されます。しかしまさにパターンの移転から、イノベティブな解決策を示す重要な革新が生まれる可能性があるのです。